

ふるさとのまつり〈六月〉



○5日 月おくれの端午の節句
市内各地

○11日 子供の日(花の日)
日本キリスト教団谷村教会

城下田中と秋元三代の治績

来る八月三十一日から九月三日までの四日間、都留市制三十五周年記念(ふるさと創生事業)の一環として、秋元三代特別展が、文化会館で開催されることになりました。

これに併せて毎月、テーマを替えて秋元三代に関する歴史講座を開催していますが、広報つるの誌上においても今月号から都留市文化財審議会々長の窪田薫先生による「城下町つると秋元三代の治績」

シリーズを連載することになりました。城下町つるの歴史と文化に理解を深めていただき、ふるさと創生の一助となれば幸いです。

第一回 秋元家譜と家紋

都留郡領主秋元氏は、但馬守(やまとのりょう)越中守富朝、但馬守喬知の三代の七十一年間をいいます。「秋元家譜」によると、その始祖を関白藤原道兼とし、頼綱の時、宇都宮氏を称し、その子泰業の嘉禄年間(一一二五～一二六)上総国秋元庄(千葉県)の庄官に任ぜられ、その子師朝の代から秋元姓を名乗ったとのこと。師朝の孫国朝の時、下総に移りましたが、それから四代目の政朝(秋元氏の祖とする)の時に再び秋元庄に戻り小系城主(栃木県)となりました。

政朝の子景知は、天文十年(一五四一)深谷に移って深谷城主(埼玉県)関東管領上杉憲賢(憲実)に仕え「深谷三宿老」の一人と称されました。

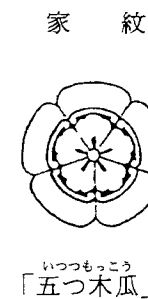
永禄七年(一五六四)小系城は小田原城主北条氏政に攻められ、

秋元義久はよく防戦しましたが落城しました。一方、景知の仕えた上杉氏は、元亀四年(一五七三)北条氏政に攻められ、遂にその麾下(支配下)に属しました。

天正十八年(一五九〇)豊富秀吉の小田原攻めで北条氏は亡び、景知の子長朝は文禄元年(一五九二)上野国箕輪城主(群馬県)井伊直政の推挙で徳川家康に仕え、上野国中野谷で五百石(後四千石)を賜りました。慶長五年(一六〇〇)石田三成とよしみを通じていた会津の上杉景勝が兵をあげ、三成は西国の大名をさそって家康に対抗したので、家康は上杉家と縁の深い長朝を使者として上杉家と交渉し、白河の関から南へ兵を出させないようにしました。

後方の憂いの除かれた家康軍は、天下分けめの関ヶ原の合戦に大勝利となり、慶長六年八月、長朝はその功により、元総社城(群馬県)一万国の城主となりました。

「五つ木瓜」は管領上杉氏の家紋でしたが、長朝の母春(景朝の妻)が関東管領上杉憲政の養女だった関係で、秋元氏の家紋になったとのこと。宝地区には昔から瓜を作らない家があると伝えられています。



六月十日(土)午後二時から文化会館において都留文科大學教授松本四郎先生による「城下町と家川」についての第二回歴史講座が開催されます。

第12回 詩の講演会



日常生活や自然に目を止め、感動や考えを詩として表現すると共に、中央の詩人の講演を聞くことにより、心豊かに生きたい。その様な願いをこめて、詩の講演会を計画しました。

講師は、日本の現代詩人として第一線で活躍中です。

市民にとって、有意義な一日となり、さらに、詩文化の輪が、大きく広がります様、ご案内いたします。

日時 6月24日(土)

午後1時30分

場所 文化会館四階大ホール

主催 都留詩友会(遠藤静江)

後援 都留市文化協会

演題 小海永二の詩の世界

講師 小海永二

東大仏文学科卒 横浜国大教授 現代詩人協会理事長

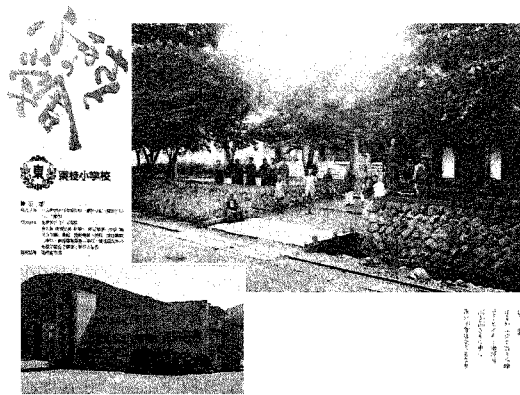
日本文芸者協会 仏語仏文学会所属 詩集定本峠

軽い時代の暗い歌、その他著書評論多数

入場 無料

入場

無料



「愛郷の精神と心身の鍛練に供せられよ。」この一節は、愛郷

今更ONLINE「東桂小学校」

学堂の創建者神戸孝一氏の言葉であり、本校八十年の教育の礎である。また、卒業生九三八四名の歌声で創立当時制定の校歌も、大正昭和平成へと歌い継がれている。往時からの郷土を愛し、教育を興す願いは、今もPTA活動に、地域の教育力の確かさに表れている。「新しき器に古きを盛る」校舎は生まれ変わったが、東桂小教育の脈々たる流れを継承し、自学・協力・勤労・強健の児童像を目標とした教育実践が、職員二八名の協働のもと日々展開されている。業間マラソンに汗するさわやかな顔、児童会のあいさつ運動や美化運動に取り組む真剣なまなざし、自主性と創造性を伸ばし、着実な歩みを続けている子どもたち。六四五の群像はすがすがしい。

東桂小学校長 小木 亮